



八王子盲学校だより



令和6年9月発行 第5号

東京都立八王子盲学校長 田島 由紀子

チェンジの秋へ

校長 田島 由紀子

今年も猛暑の夏休みでした。気温35度を超える日を猛暑日と呼びますが、この言葉はもともと天気予報や気象情報の解説などで用いる予報用語の中には存在しておらず、2007年以降になって予報用語に追加されたそうです。気象庁の記録を見てみると、1876年から記録的な猛暑のあった1994年まで、猛暑日というのはだいたい年に2~3日でした。記録的な猛暑だった1994年の東京の猛暑日は8日、それが、2022年に16日、2023年は22日、2024年は今この原稿を書いている8月23日現在で19日を記録しています。こうも暑いと、ライフスタイルをこの暑さに適応できるよう、変えていかなければならないと思うこの頃です。

変えるといえば、この夏、八王子盲学校ではいよいよ仮設校舎への引っ越しを済ませ、9月から新しい校舎での生活が始まります。思い出のいっぱい詰まった旧校舎の階段の壁に、「月曜日の朝、このかいだんが一番キツかった」という、思わず「わかる、わかる！」と膝を打つメッセージが残されていました。夏休み明けの登校は、この月曜日の登校よりもさらにキツく感じるかもしれませんが、上手に気持ちをチェンジして、真新しい仮設校舎に通うのを楽しみに、2学期からの学校生活をスタートしてもらいたいと思います。

そして、この夏は、7月5日の関東甲信越地区弁論大会を皮切りに、7月13日の六光祭、8月20日から22日までのフロアバレーボール全国大会と大きな行事が目白押しでした。どの行事でも、幼児・児童・生徒の皆さんの活躍が光り、その成長を頼もしく感じました。

直近の8月22日に閉会した全国盲学校フロアバレーボール TOKYO 大会では、フロアバレーボール全国大会史上初、主幹校として交流戦の1位決勝戦に出場するという大躍進を遂げることができました。チームの皆さん、全国大会ということで大きなプレッシャーがあったと思いますが、本当によく頑張ってくれました。大会スローガンである「一勝の嬉しさ、一敗の悔しさを忘れない」のとおり、この勝利も、また負けた悔しさも選手の皆さんの糧となり、2学期からのより良い「チェンジ」に繋がっていくものと思います。

保護者の皆様には、新しい校舎での新しい学期が始まるにあたり、どうぞ引き続きの御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

< 校舎移転に伴う御連絡 >

日頃より皆様におかれましては、御理解と御協力をいただき誠に感謝申し上げます。夏季休業中に今までの校舎から校庭に建設されました仮設校舎へと移転いたしました。電話番号等は変更ありませんが、以下の点についてお願い申し上げます。

- ① 幼児・児童・生徒の送迎は東門よりお願いいたします。西門はスクールバスが利用いたします。
- ② 本校への御用事の際には、東門と玄関の2カ所のインターホンを鳴らして御通行ください。
- ③ お車でお越しの際には、寄宿舍駐車場をわざわざですが御利用いただけます。
- ④ 校内のエレベータはお体の不自由の方を中心に御利用いただいております。できるだけ階段を御利用ください。

「上半期八盲 4 大イベント」を終えて

副校長 能瀬 圭介

この夏の約 2 か月間を「上半期八盲 4 大イベント」と命名して①関東甲信越地区盲学校弁論大会、②六光祭、③仮設校舎への引っ越し、④全国盲学校フロアバレーボール TOKYO 大会を行いました。

様々なことがあった今夏でしたが、何とか今に至っています。一つ感じたことは協力することで生み出される力はとても強いということです。八盲にはそんな力があることを実感しました。ある方から「上半期 4 大イベントがあるなら下半期もあるのですか？」と言われましたが、それはありません。2 学期からは少し地に足を付けて「慣れる」をテーマに教育活動を展開したいと思います。

① 関東弁論大会の報告

教諭 大越 恵仁

「全国盲学校弁論大会」は、昭和3年(1928 年)に毎日新聞社点字毎日の主催で開催されて以来、令和6年度で 92回目を迎える歴史を刻み続けた伝統ある大会です。全国大会へつながる「関東甲信越地区大会」が、本校主管で7月5日(金)に開催されました。

各校での校内予選を経て選ばれた代表者 1 名が集い、12 名で弁論を繰り広げました。かけがえのない人とのつながり、発想の転換の重要性、視覚障害者であることによる経験談等、聴衆に強く訴えかける論旨が次々に発表されました。閉会式で審査員からは、「前向きな姿勢に感動した」「ぜひ、今日の様子を自分の学校でも広めたい」といった講評が聞かれました。弁士同士は感想を伝え合ったり、優れていた点を賞賛したりする場面が見られました。

厳正なる審査の結果、上位3名が 10 月に開催される全国大会へ進出します。残念ながら本校の代表生徒は入賞に至りませんでした。来年度へ向けて再び努力したり、後輩に今回の学習の成果を還元したりして学校全体の「弁論の能力」や「伝える力」が向上することを期待しています。

② 六光祭について

主幹教諭 深澤 陽子

例年は秋に行われる六光祭ですが、今年は7月13日(土)、真夏の開催となりました。本校舎改築前の最後の学校行事として、幼児・児童・生徒がそれぞれに練習し、工夫を重ね、ステージや催し物、展示作品を発表しました。取り壊される校舎への感謝の気持ちを込めて、校舎内の壁や天井には虹色のペイントや旗、校舎へのメッセージで飾られ、校長室前には歴代の校長先生の写真が並びました。卒業生や一般の方も含め、200 名余りが来校され、にぎやかに実施されました。フィナーレでは長年にわたって八盲に関わった方々の話に学校の思い出を振り返り、参加者全員で校歌を歌って、校舎50年余りの歴史に幕を下ろしました。

③ 仮設校舎への移転について

主幹教諭 野村 利己

仮設校舎への引っ越しも無事に終了し、2学期からいよいよ新しい校舎での生活が始まります。仮設校舎は旧校舎の6割ほどのサイズとなるため、思い切った断捨離を進めました。現在、東門から敷地内に入ると、廃棄した机やロッカー等がたくさん置いてあります。通行の妨げにはなりませんが、きれいな状態になるまで、今しばらく御容赦願います。校舎内部は内覧会で見学した時とは異なり、教室内も机やイスなどが整備され「学校らしく」なりました。各教室の位置関係などを早く覚えて、楽しい学校生活を送りましょう。個人的には秋の紅葉や春の桜が、教室からどのように感じるのか楽しみです。

次号特集 全国盲学校フロアバレーボール大会

生徒の活躍と運営のお話